

## Ⅱ 教育活動の概要

## (1) 昭和63年度カリキュラム運営

カリキュラム委員会  
委員長 藤井 宏一

昭和63年度のカリキュラム委員会は前年度のカリキュラム委員会のメンバーの多くがそのまま留任した。本年度は、昨年度から実施された新しいカリキュラムの定着を主な目的とした。また、委員長の梶教授が9月より国連機関へ出向となったため、藤井が後任となって運営を行った。

### 1. 新入生ガイダンス

昨年とはほぼ同様の方針で、以下のような日程で行った。

ガイダンス日程表

	午 前	午 後
8日 (金)	入学式(10:00~10:26)	新入生ガイダンス (13:00~ ) C103 1. 研究科長挨拶 (13:00~) 2. 全体の概要と諸注意 3. カリキュラム関係の概要説明(13:30~) 4. 共通科目の概要説明 (14:00~) 5. 修士論文Data Baseの説明 (14:15~) 6. 環境科学実習の説明 (14:25~) 7. 就職委員会の概要説明 (14:45~) <休憩10分> 8. 教職員の紹介(各自1分) (15:10~) 9. 新入生自己紹介(各自1分)
9日 (土)	2年生修士論文テーマ発表会 C103 (9:00~12:00, 13:00~14:30) 発表時間:一人3分(発表1分, 質問2分) 口頭により学籍番号順に発表する。	2年生ガイダンス<2年生> C103 (14:30~15:00) 1. 研究科長挨拶 2. カリキュラム・修論について 3. 就職について
11日 (月)	分野別ガイダンス C103 自然環境(9:00~)[河村, 古藤田, 安仁屋, 松本(栄), 小林, 田瀬, (朴)] 生物環境(10:00~)[岩城, 高野, 藤伊, 藤井, 及川, 前田, 斉藤, 中村(徹), (腰塚)] 生産環境(11:00~)[大羽, 池田, 石塚, 多田, 田付, 手塚, 森下, 臼井, 佐久間, 関, 久島, 松本(宏), (田村)]	分野別ガイダンス C103 環境改善(13:00~)[中村, 山口, 山中, 国府田, 大橋, 下條, (高田)] 環境計画(14:00~)[梶, 池原, 川手, 黒川, 谷村, 土肥, 天田, 糸賀, 岩崎, 石見, 熊谷, 小泉, 佐藤(洋)田島, 日端, 石田, 齊木, (鎌田, 渡辺)] 環境政策(15:00~)[河野, 中山, 藤木, 鶴野, 北畠, 佐藤(俊), 安田, 阿部, 吉川, (松村)]  *新入生歓迎交流会* 主催2年生 第三学群食堂 (18:30~21:00) 新入生・2年生・教職員参加

### 2. 2年生の研究テーマ発表と研究計画の登録

昭和63年4月1日2年生在籍91名の内休学1名, 7月修了予定者1名, 昨年度休学者1名, 昨年度発表済みの4名を除き, 80名が要旨を提出し(4名未提出), 74名が口頭発表を行った。

当日欠席の10名は, 学会出席, 病気などの理由書が提出され, 修論担当教官によって確認された

ため、研究計画の登録が行われたものと認定した。

### 3. 環境科学 I, II

共通必修科目である、環境科学 I, II は、本年度は岩城教授、川手教授をそれぞれ世話人として、以下のような内容で実施した。

昭和63年度 環境科学 I

期 日	テ ー マ	担当教官
(1) 4月18日	総論	岩城 英夫
(2) 4月25日	池水環境	古藤田一雄
(3) 5月2日	大気環境	河村 武
(4) 5月9日	海洋環境	高野 健三
(5) 5月16日	化学物質と環境	手塚 敬裕 石塚 皓造
(6) 5月23日	土壌環境	大羽 裕
(7) 5月30日	陸域生態系(植物)	及川 武久
(8) 6月6日	陸域生態系(動物)	藤井 宏一
(9) 6月13日	水域生態系	前田 修
(10) 6月20日	環境と人間	山口 誠哉
(11) 6月27日	<期末テスト>	

昭和63年度 環境科学 II

期 日	テ ー マ	担当教官
(1) 4月15日	環境と人間活動	山中 啓
(2) 4月22日	生活の質	鶴野 公郎
(3) 5月6日	自然環境保全	糸賀 黎
(4) 5月13日	社会資本形成	小泉 允罔
(5) 5月20日	環境デザイン	田島 学
(6) 5月27日	都市の安全性	熊谷 良雄
(7) 6月3日	土地利用と環境	日端 康雄
(8) 6月10日	環境と経済	北畠 能房
(9) 6月17日	交通システム	石田 東生
(10) 6月24日	環境と廃棄物	中村 以正
(11) 6月29日	<期末テスト>	

### 4. 修士論文中間発表

本年度から、分野別の中間発表会をできるだけ10月中に行うことを申し合わせた。これに伴って研究科全体の中間発表会を9月中旬に行うこととし、9月16日の午後行った。2年生在籍者90名の内、85名が要旨を提出し(2名未提出)、(遠隔地での研究中、就職試験等による4名の欠席を除く)83名が発表を行った。

### 5. 環境科学特講

環境科学の最新の諸問題をトピックスとして取り上げる環境科学特講は、本年度はⅣ、Ⅴ、Ⅵを開講した。特講Ⅳは、研究科プロジェクトの実施チームの一つ(白神プロジェクト)が、Ⅴは9月より本研究科の外人教師として着任した権先生が、Ⅵは非常勤講師の山内先生がそれぞれ担当して、以下のような内容で行った。

環境科学特講

担当者	テーマ及び内容
環境科学特講Ⅳ (責任者) 安仁屋政武	「白神山地・春秋林道をめぐる環境科学的諸問題」 12/ 6 自然環境一般 (安仁屋) 12/ 7 森林植生 (中村(徹)) 12/10 白神山地自然保護派の講演 12/14 環境経済 (北島) 12/17 春秋林道推進派及び行政の立場からの講演 12/20 自然保護 (糸賀)
環境科学特講Ⅴ (外国人教師) 権 源庸	「計画と策定と執行における諸問題 ( Issues and Problems in Plan -making and Implementation )」 12/7, 14, 21
環境科学特講Ⅵ 山内愛造 (繊維高分子材料研究所)	12/17 1. 排水処理に利用できる機能性材料について 12/20 2. 環境衛生について 3. 環境科学関連の情報検索について

## 6. 修士論文発表会

昨年度に引き続き、カリキュラム委員会が担当して、平成元年2月6、7日の2日間にわたって、1人当たり17分(発表12分、質疑5分)の発表会を行った。在籍者90名の内、75名の発表があった(1名は大学院入試のため欠席、1名は前年度発表済み)。これらの発表者及び発表会には出席しなかった2名はその後の専門委員会、審査委員会等の審議を経て、全員合格と認定され、本年度は77名が修了することとなった。

未修了者13名の内訳は以下のとおりである。

退学	2名	
留年	休学中	1名
	修業年限不足	1名
	論文未提出	9名
計	13名	